

現代社会にも必要不可欠な場

時には学問的な探求を試み、時には政治的実践について語り合う

金子 宗 徳

前田 勉 著

江戸の読書会

会談の思想史

かれこれ七年あまり、大読」といふ語じたいは『福

学院の後輩たちと近代日本 翁自伝』で目にしてゐた
の思想を学ぶ読書会を続け
てきた。テキストのみなら
ずライフヒストリーを手掛
かりとして思想家なり文学
者の内面に迫る発表を行
ひ、各人の「読み」に基づ
いて議論を交はし、その中
身に関連させる形で次のテ
キストと発表担当者とを定
める。議論の流れ次第で日
本人以外の著作を取り扱ふ
こともあり、一人で決して
読むことのできない様々な
著作に触れることが出来
た。夕暮れ時になると、盃
を片手に政談から狼談まで
他愛もない会話を楽しむ。
正直云つて、こちらの方が
メインかもしれない。

「他者」と出会う、切磋琢磨
する場でもあった。
しかし、本書でも指摘さ
れてゐる通り、「会談の場
は『正味の美力』」「美
績」を原理とするだけに、
そこには当然、『属性』を
原理とする身分制度との間
に対立・衝突が生まれる」
ことは云ふまでもない。私
塾では実力主義を貫徹でき
たが、藩校では同様のこと
は不可能である。でも、
上級武士の子弟であれば凡
庸であつても相応の役職に
就くことができ、下級武士
の子弟であれば学問を重ね
ても出世の機会がないな
ら、学問に対する意欲は削
がれるだらう。

このやうな読書会は西歐
のサロン文化に端を発する
ものかと思つてゐたが、本
書によれば、江戸時代の我
が国にも「会談」といふ共
同読書の方法があつた。会

「ミア」の翻訳書である『解
体新書』の刊行もまた、か
うした「大人の遊び」に位
置づけられてゐる。また、
それは異なる見解を抱く
「他者」と出会う、切磋琢磨
する場でもあった。
しかし、本書でも指摘さ
れてゐる通り、「会談の場
は『正味の美力』」「美
績」を原理とするだけに、
そこには当然、『属性』を
原理とする身分制度との間
に対立・衝突が生まれる」
ことは云ふまでもない。私
塾では実力主義を貫徹でき
たが、藩校では同様のこと
は不可能である。でも、
上級武士の子弟であれば凡
庸であつても相応の役職に
就くことができ、下級武士
の子弟であれば学問を重ね
ても出世の機会がないな
ら、学問に対する意欲は削
がれるだらう。

者たちが自由に討論する
「読む会談」とが存在した
が、後者は「大人の遊び」
といふ側面が強かつたとい
ふ。これなど、私自身の経
験からしても頷ける指摘
だ。前野良沢や杉田玄白ら
による「ターヘル・アナト
による『ターヘル・アナト
垂直的な軌範を重視すると

草末になると、会談は真
理を学問的に探求する場か
ら政治的実践に関はる場へ
と変貌していく。個人的に
興味を覚えたのは、水戸藩
の例である。朱子学の影響
を色濃く受け、独自の国体
論を生み出した水戸学には
こゝむねの氏（二）里見日本
文化学研究所主任研究員・
近代日本政治思想史専攻）
★まえだ・つとむ氏は愛
知教育大学教授・日本思
想史専攻。東北大学大
院博士後期課程単位取得
退学。著書に「近世神道
と国学」など。一九五六
（昭和31）年生。

このやうな読書会は西歐
のサロン文化に端を発する
ものかと思つてゐたが、本
書によれば、江戸時代の我
が国にも「会談」といふ共
同読書の方法があつた。会

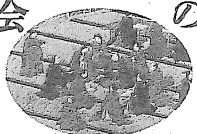
草末になると、会談は真
理を学問的に探求する場か
ら政治的実践に関はる場へ
と変貌していく。個人的に
興味を覚えたのは、水戸藩
の例である。朱子学の影響
を色濃く受け、独自の国体
論を生み出した水戸学には
こゝむねの氏（二）里見日本
文化学研究所主任研究員・
近代日本政治思想史専攻）
★まえだ・つとむ氏は愛
知教育大学教授・日本思
想史専攻。東北大学大
院博士後期課程単位取得
退学。著書に「近世神道
と国学」など。一九五六
（昭和31）年生。

江戸の

会談の思想史

前田 勉

読書会



四六判・392頁・3360円
平凡社
978-4-582-84232-6

（昭和31）年生。